令和８年度　授業改善推進プラン　　＜教科名　国語　＞

小平市立小平第五中学校

【生徒の実態】

	第１学年	第２学年	第３学年
学力分析	・作文が苦手な傾向にある。原稿用紙の使い方という基本的なところができていなかったり、課題にあった自分の実体験や意見を述べたりすることが難しい。	・漢字テスト（10 点満点）では、満点、またはそれに近い点数を取ることができる。 ・一方で語彙や想像力が乏しく、文章の内容を読解することが苦手に見える。	・全国学力調査では全項目で全国を上回っている。東京都と比べると思考判断表現の内容 B,C、評価の観点②（思考判断表現）、問題形式別では記述式が 0.9～3.4%上回っており、記述を意識した授業やテストの成果が出ていた。一方、知識技能が 1.7～2.5%下回っており、語彙力・漢字力をはじめとした基礎的な力の不足が現れていた。
学習状況	・多くの生徒は、授業に積極的に参加している。一方、自力で問題を解くことが難しく、プリントがほとんど白紙の生徒もいる。	・教師の指示や他者の発言にはよく耳を傾けている。しかしいざ課題に取り組む段階になると、自力で解くことが難しい生徒が多いように見える。	・意見交換によって友達の良いところを取り入れて生かそうとする姿が多く見られ、１年生から取り組んでいる古典の音読やビブリオバトルでは、生徒の取り組みにも工夫がみられるようになり、発表の質も向上した。 ・書くことに抵抗が少なくなったが、自分の考えを最も適切な言葉で表現する力が不足している。 ・漢字テストでは１回 20 問出題、同じものを２回行うが、１回目のテストで 18 点以上が８割以上２回目では９割以上が合格するなど、漢字に意欲的に取り組んでいる。
生徒アンケートの結果より	・授業評価アンケートの項目５について「そう思う」の割合が約４割であった。授業ごとに目標は示しているが、授業の終わりのまとめの時間を取ることができていないのが原因だと考える。 ・授業アンケート項目７についても「そう思う」の割合が約４割であった。	・「１日１時間以上の家庭学習をしている」という生徒は約６割であった。しかし、授業で習ったことを基本に出題する定期考査の平均点が乏しいことから「わかるまで学習する」という習慣が身についていないのではと考えられる。 ・「ICT の活用や実物を示してくれる」という質問で「そう思う」の回答が約 4～5 割であった。	・項目 2,7 は 85%以上、それ以外は 92%以上が肯定的な回答となっている。意見交換を意識的に取り入れることにより、新たな気づきや発見、考えが深められたことはとても有効であった。今後はそれを適切に out put できる力を高めたい。

【授業改善の手立て】

	第１学年	第２学年	第３学年
改善計画	・単元の終わり毎に課題作文を書く。様々な課題や文章の書き方に慣れると共に、支援が必要な生徒には個別で指導またはペアやグループ等で書かせる。 ・ペア学習などをより多く行うことで、一人では課題に取り組むことが難しい生徒でも取り組めるような手立てを講じる。	・単元ごとの語句の意味調べを継続して行うと共に、調べても分からない語句については別の辞書などで分かるまで調べる指導を行う。理解が難しい生徒には、ICT を使い映像などで示す。 ・ペアやグループでの活動をより多く取り入れ、個別に学習できない生徒が課題に取り組めるような手立てを講じる。	・要約に積極的に取り組み、的確に読み取る力を付ける。 ・主体的・対話的で深い学びに繋がる話し合い活動から自身の考えを再構築する力を身に付けさせる。 ・問いに対する答え方や文章の書き方など、今まで身に付けてきた「型」を応用的な場面でも適切に使えるようにする。
評価方法	・課題に正対した文章を書くことができる。プリントで見とる。 ・ペアやグループで課題に取り組み、課題に正答することができている。授業で見とると共に、定期考査等で読解の部分を見とる。	・授業時に進んで語句の意味を調べようとしているかを見とる。 ・語句の意味を理解している。定期考査や小テストで見とる。 ・定期考査等で、課題に正対できているか(読解力があるか)を見とる。	・「単元の目標」、「今日のめあて」を明確に提示し、課題に対しどのように取り組めたか、どんな力がついたかを他者と共有、比較する。 ・主体的に学ばせるために見通しをもった課題設定や発問を行う。